第3学年1組学級活動（1）学習指導案

町田市立　小山小学校
2026年11月13日（金）5時間目
対象　第3学年1組　32名
指導者　教諭　渡邉有紗

1 議題「3の1リンピックを開こう」

2 議題について

（1）児童について（児童観）

本学級には、前向きで向上心が高く、何事にも「やってみよう」と素直に取り組むことができる児童が多い。しかし、 年度当初は特定の友達との関わりに留まりやすかった。そこで、日常的にキラリ（よいところ見付け）の共有を行い、友達のよいところに目が向けられるような児童の育成に努めた。活動の積み重ねにより、特定の友達だけでなく、目立たない場面での友達のよさ（隠れたキラリ）にも自発的に目を向けられるようになった。キラリを伝えられることで、役割を果たしてみんなに喜ばれたことを実感し、自己有用感が高まり、「クラスのために何ができるか」と次の行動に繋げている児童が増えてきた。また、友達の優れた姿を「自分もやってみよう」と自分の行動に生かし、互いの成長を自分の学びへ波及・還元できるようになってきている。

学級会において、年度当初は事前の意見シートに書いた自分の考えに固執したり、形式的な発言にとどまったりする傾向が見られた。そこで、話合いにおいて考えを聴き合うなかで、考えが変容してもよいことや、「自分にとっても、みんなにとってもよい意見」を見出していくことが大切であることを指導してきた。加えて、友達の考えのよさを生かすことができるように「○○さんが言っていたように～」と友達の意見とつないで発言することのよさを指導したり、自分のめあてをもって話合いに参加することができるよう、学級会ノートでめあてと振り返りを記入することを常時化したりする手だてを継続して行ってきた。話合いでは、友達の意見を丁寧に聴き合い、文脈をつないで発言したり、対話を通して柔軟に自分の考えを変えたりしながら、よりよい解決策を導き出す姿へと成長しつつある。

しかし、友達の意見を生かしながら、よりよい意見を生み出そうとする合意形成は未だ経験に乏しい。互いの意見のよさを生かしていきながら、「自分にとっても、みんなにとってもよい意見」を見いだしていく経験を積むことで、互いのよさを生かして、他者と協働できるような児童を育てていきたい。

（2）今までの話合い活動

月日	話合い活動	「議題名」・児童の様子　◇教師の指導
4/13（月）	第1回	「どうぞよろしくの会をしよう」 ・提案理由を意識した意見が複数出てきた。 ・発言する児童に偏りがあった。 ◇一人一人が発言し、多くの意見が集まることで、よりよい考えをつくり出せることを伝え、次回に向けての課題として意識できるようにした。 ◇提案理由に沿った意見が出せたことで納得してみんなで決められたことを振り返り、提案理由に沿うことの大切さを全体で共通認識をもてるようにした。
4/24（金）	第2回	「みんなを楽しませる係をつくろう」 ・心配意見に対して、解決する視点をもって話し合うことができた。 ・疑問に感じたことを問いかけることで、それぞれの意見のよさを聞き合うことができた。 ◇心配意見を解決できるよう話し合うことで、納得して決定できることを価値付けた。 （※心配意見　4研究主題に迫るための手だて【他者受容】①参照）
4/28（火）	第3回	「まだ話したことがない子ともっと仲良く」 ・みんなの意見のよいところを生かそうとする意識が生まれ、それぞれを生かした折衷案を考え、決めることができた。 ・一人ひとりが、どれがいいと思っているのか、意思表示が大切であることを助言すると、発言する児童が増えた。 ◇「○○さんと同じように…と思いました。」と友達の言葉を借りて伝えてもよいことを助

		言し、同じ思いでも意思表示することの大切さを価値付けた。
5/20 （水）	第4回	「キラリ集会を開こう」 ・やることと、みんなのキラリを見付ける工夫の2つの事柄について話し合って決めることができた。 ・計画委員を立てて、話合いを進めることができた。 ・リアクションをとって、話合いの雰囲気を良くしようと努める児童の姿が多く見られた。 ◇リアクションをとることで、話合いの雰囲気が良くなることやみんなの意思が伝わり、話合いの進行がしやすくなることを価値付けた。
6/22 （月）	第5回	「3－1のキャラクターをつくろう」 ・意見のよさを比べ合い、必要に応じて折衷案を提案することができた。 ・意見の分類をしながら、決めることが明確になるように黒板を整理しながら話合いを進めることができた。 ・心配な意見には寄り添い、解決策を出し合い、合意形成することができた。 ◇心配な意見に寄り添い、みんなの納得解を見付けられたことを価値付けた。
7/6 （月）	第6回	「夏祭りパーティーを開こう」 ・時間内に、やることと工夫を話し合い、決めることができた。 ・リアクションをとって、話合いに参加する児童が増えた。 ・会が楽しくなるような工夫がなかなか出なかった。 ◇それぞれの意見のよいところを見付け、意見を合体したり、通らなかった意見も実現できるように工夫したりすることができたことを価値付けた。
9/30 （水）	第7回	「けいちゃんともっと仲良くなろう会を開こう」 ・提案理由に沿うためには、どの遊びがよいか、実際に遊ぶ場面を想像しながら話し合うことができた。 ・対話のときにリアクションが少なく、計画委員が話合いを進めづらそうな場面があった。 ・以前発言できた児童が、複数回発言できるようになっていた。 ◇実際に遊ぶ場面を想定しながら話し合うことができたことを価値付けた。計画委員さんが進めづらかった場面を振り返り、どうするとよりよい話合いになるのか、考えるよう指導した。
10/30 （金）	第8回	「桜花先生を迎える会を開こう」 ・提案理由を意識して、意見と理由を合わせて伝えることができた。 ・多くの児童が、どの意見がよいか、積極的に意見やリアクションを出し、話合いをスムーズにすすめることができた。 ・話し合うこと①で何をするか、話し合うこと②で工夫と二つの柱について、時間内に話合い、決定することができた。 ◇多くの児童の声やリアクションをもとに話合いを進めることができたことを価値付けた。意思を表すことで、計画委員も、フロアの児童も、学級全体の意思を確認しながら合意形成が図れることを、話合いを振り返りながら確認した。

（3）議題選定の理由

本議題は、児童の議題カードから生まれたものである。

本学級の児童は、オヤマリンピック（運動会）に向けて、どうしたら協力して競技に取り組み、勝利を目指すことができるか、日々の練習の中で試行錯誤し、本番に臨んでいた。チームの仲間と声を掛け合いながら、作戦を生かして協力してプレーしたことで、仲が深まったと実感する児童が多くおり、大きな達成感を味わうことができた。

その中で児童の中から「3年1組のオリジナルオヤマリンピックを開きたい」「協力して取り組む競技で、クラスの仲をもっと深めたい」という願いが、数多く出た。学級全体で、「協力して運動をする活動を通して、クラスの仲を深めたい」という意思の確認を行い、本議題に決定した。

本時の話合いでは、競技の内容を決めるだけではなく、「どうしたら協力して仲が深まるのか」「どうしたらクラスのみんなが楽しく笑顔で取り組むことができるか」という3のリンピックをよりよくするための工夫についても話し合う。協力して競技を行い、みんなが楽しめる会の企画・運営をするなかで、さらにクラスの仲が深まる機会としていきたい。

3 学級活動(1)「学級や学校における生活づくりの参画」の評価規準

	よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
評価規準	楽しい学級生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。学級会の進め方や意見の比べ方、合意形成の仕方を身に付けている。	楽しい学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について、多様な意見のよさを比べ合いながら合意形成を図り、協力して実践している。	よりよい学級生活や人間関係を築くために、見通しをもったり振り返ったりしている。自己のよさを発揮し、多様な他者と協働して取り組もうとしている。

4 研究主題に迫るための手だて

【自己理解】

①ワークシートを活用して考えを可視化することで、自信をもって参加できるようにする工夫

・全体で手を挙げて発言することに気後れしてしまう児童も、「自分の考えをもっていること」自体を自覚できるようにする。

②振り返りシートの観点を明確にする工夫

・「自分が頑張ったこと」を記入する際、単に「発言できたか」ではなく、多様な頑張りを見付けられる「視点の視覚化」を提示する。

③「頑張りの観点リスト」を提示する工夫

・「発言した」「理由を考えて書いた」「友達の意見を頷きながら聞いた」「自分の考えを柔軟に変えた」「決まったことに賛成した」など。前時の自分から本時までにどのように成長したのか、振り返ることができるよう、学級会ごとの振り返りが一覧で見られるようにする。

【他者受容】

①多数決に頼らない合意形成のプロセスの工夫

・児童が「賛成・反対」の二項対立で捉えるのではなく、異なる意見の背景にある友達の「学級をよくしたい」という願いや思いに目を向けられるように工夫する。 具体的には、反対意見を「心配意見」とネーミングし、単に反対するだけでなく「ここが心配だから、こうしたらどうかな」と理由と代替案をセットで発言・比較できるようにする。これにより、自分と異なる考えを拒絶するのではなく、「学級をよりよくするための貴重な視点」として受け入れるとともに、納得解に向かって折り合いをつける手だてとする。心配意見も尊重し、折り合いをつけて「新しい考え（折衷案）」や「納得解」をつくる話合いのよさを、実践をもって価値付ける。

②振り返りで「友達のよかったところ」の具体化

・振り返りシートに自分の言動を振り返るだけでなく、友達のよかったところや思いに注目できるように、「友達のよかったところ」も記入するよう、項目を設定する。話合いのなかで、友達の言動に注目し、よさを見付け、生かすような風土を育てていく。

③「つなぎ発言」や話型のモデル提示やリアクションの取り方の掲示

・「〇〇さんに付け足します」など、他者の意見を尊重しながら対話を進めるスキルを身に付ける指導を行う。また、他者の意見を受け入れる雰囲気づくりとして、「あいづち名人」の指導を行い、リアクションの例を掲示する。

④板書による思考の可視化・操作化

・意見を短冊で似た者同士で分類・整理して意見の共通点や相違点を目に見える形にする。それぞれのよさを生かした学級の納得解を見付けられるよう、思考を可視化することで、一つ一つの意見のよさや違いを明確にする。

5 事前の活動

日時	児童の活動		指導上の留意点
	計画委員会の活動	学級全体の活動	
11/2 （月） 中休み	・議題を確認する。		・学級の現状を踏まえて、どの議題について話し合ったらよいか考えながら選べるようにする。
給食の時間 帰りの会		・計画委員会で確認した議題案から、学級全体で議題を選定する。	・学級全体で、議題に対して共通の課題意識をもって選定できるようにする。
11/ 4 （水） 中休み	・司会グループの役割分担をする。 ・提案理由を深める。		・提案者の思いがより伝わるよう、「思いの軸」が引き出し、提案理由がつくれるようにする。
帰りの会		・提案理由と話し合うことを確認する。	・提案者が思いを伝え、学級全体が議題に向けて共通理解ができるようにする。 ・話合いの流れを全員で共有できるようにする。
11/ 5 （木） 朝の会		・提案理由に対し学級で共通認識をもつ。	・提案者の思いを具体化し、学級全体が共通認識をもてるようにする。
中休み	・話合いの進め方の確認 （学級会シートの作成）		・話し合うことと決まっていることが明確になるように助言する。
帰りの会	・学級会シートを配布する。		
11/ 6 （金） 朝の会		・決まっていることを確認し、学級会シートに自分の考えを記入する。	
中休み	・回収したシートを確認し、出ている意見を整理して書き出す。		・提案理由に沿っている考えには、印をつけるよう助言する。
11/9 （月） 中休み	・どのような流れで話し合うか、考える。 ・活動計画を作成する。		・それぞれの役割がどのように行動したらよいか、見通しがもてるようにする。 ・これまでの学級会を振り返り、どのようなことに気を付けていけばよいか、計画委員で共通認識がもてるようにする。

帰りの会	・書き出したアイデアをクラスルームで共有し、告知する。		・友達の考えに触れるなかで、新たに意見をもってもよいことを伝える。
11/10（火）中休み	・活動計画を作成する。 ・それぞれの役割で気を付けたいことを再度確認する。		・話合いの進め方について助言する。
11/11（水）中休み	・板書の準備を行う。		
11/12（木）中休み	・リハーサル		・話合いの流れを想定し、進め方を確認する。

6 本時の展開

（1）議題

「3の1リンピックを開こう」

（2）ねらい

多様な考えを受け入れ、生かしながら、みんなで協力しながら取り組むことができる競技や、協力して仲を深める工夫やみんなが笑顔になれる工夫について話し合うことを通して、お互いの意見を尊重しながら、納得のいく競技や会をよりよくするための工夫を合意形成し、進んで学級生活を楽しく豊かにしようとする態度を育てる。

（3）提案理由

オヤマリンピックでは、赤組と白組で協力して競技に取り組むことができ、三ツ星の協力が達成できたと思います。だから、オヤマリンピックのように、3の1でもチームで協力して競技に取り組んで、みんなが笑顔で3の1リンピックを終えることで、協力する力をもっと付けて、3の1の仲をもっと深めていきたいです。

（4）決まっていること

・11月21日（土）4時間目

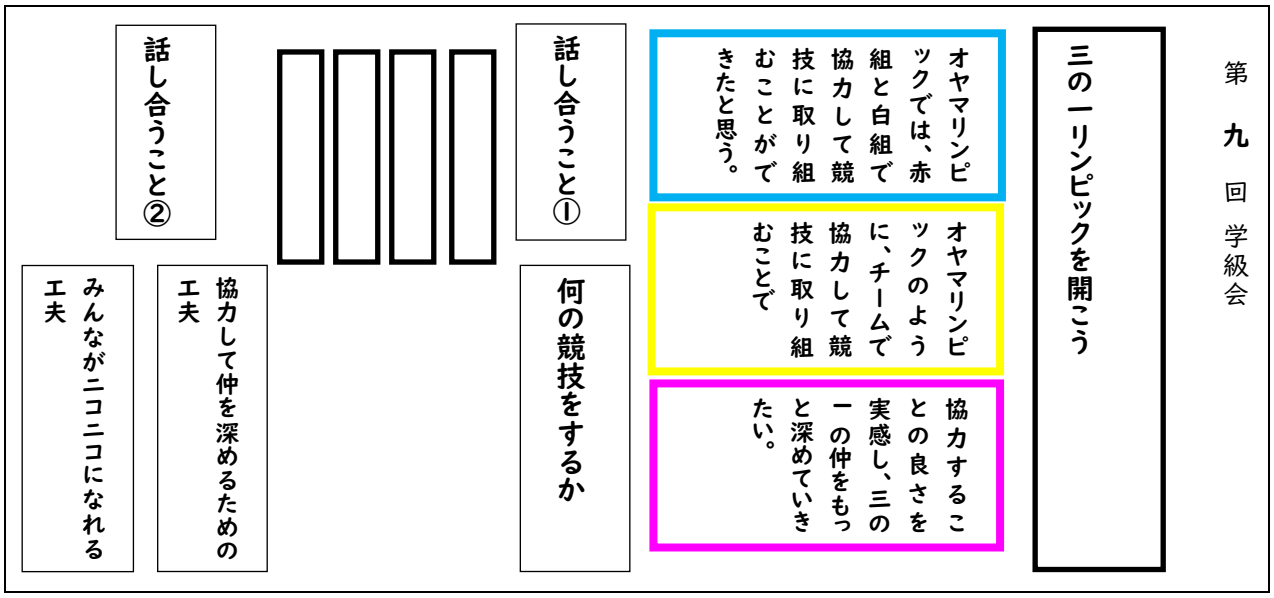
・場所は体育館

・競技は1つ

(5) 教師の指導計画

	学習活動	・指導上の留意点 ○評価(評価方法)
導入	1 始めの言葉 2 計画委員の紹介 3 議題の確認 4 提案理由の確認 5 話合いのめあての確認 みんなが協力して、ニコニコになれるような方法を考えよう。 6 決まっていることの確認	
展開	7 話合い 自 他 話し合うこと (1) 何をするか(プログラム) (2) 協力して仲を深めるための工夫 みんなが笑顔になるための工夫	自己理解① ・ワークシートに自分の考えを事前に書いているので、それを活用することで話し合いに参加しやすくする。 ・各自設定しためあてを基に、発言だけでなくリアクションでも話合いに参加するようにする。 他者受容① ・異なる意見の背景にある友達の「学級をよくしたい」という願いや思いに目を向け、互いの意見のよさを生かしたり、「心配意見」をどうしたらよくなるかの視点で発言したりできるようにする。 ・自治的な活動の範囲外に自分たちで気付かないなど、必要な場合は助言をする。特に人権的配慮が必要な場合は指導をする。 ・児童の活動の様子(発言、行動、つぶやき)を記録し、終末の助言で取り上げる。 ○3の1で協力して3の1リンピックを行うには、どのような競技や工夫がよいかを考え、発言したり、リアクションをとったりしている。 (観察、記録) ○多様な考えを聞き合うなかで、それぞれの意見のよさを比べ合い、意見をよりよくしながら話し合っている。 (観察、記録)
終末	8 決まったことの発表 9 振り返り 自 他 10 先生の話 11 終わりの言葉	自己理解② 他者受容② ・自分が設定しためあてに対してどうだったか、友達の考えがどのようによかったか、などの振り返りの視点を明確にする。

（6）板書計画（議題や提案理由、話合いのめあて、決まっていること）は黒板横モニターに掲示



7　事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点
11月16日（月）～	・話合いで決めたことを基に、実践に向けて準備を進める。	・自分の役割を果たせるよう見守り、必要に応じて助言する。
11 月21日（土）	・話合いで決めたことを基に、3の1リンピックを開催する。	・話合いで決まったことを児童が実践できるよう、支援する。
11月21日（土） 11月25日（水）	・実践の終了後、振り返りをする。	・実践の振り返りをし、よかった点や改善点を次の一連の学習過程に生かすことができるよう、助言する。